

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101169		
法人名	日本海観光株式会社		
事業所名	グループホーム敬愛苑 Bユニット		
所在地	島根県松江市寺町198-57ポートピア松江ビル4階		
自己評価作成日	令和3年11月13日	評価結果市町村受理日	令和3年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和3年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・看護師を配置している為、状態変化をすぐに報告し、正確な状況を主治医に伝えることができる。
 病院受診なども看護師が同席することにより状態の把握や家族の安心感につなげることもできる。
 又、事業所内に防災センターがあり、専門的に対応してもらっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム敬愛苑 Aユニット に記載しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼にて唱和している。 年度初めに、会議の中で、理念について話したり、介護ケアについてふり返る際にも理念を意識してもらうよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所へ散歩に出かけたり、行事の際にはテイクアウトをお願いしたり、買い物に出かけたりしている。同じ建物内にあるカラオケにも参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	災害時の一時避難所になっている。 コロナ禍の為、現在は行っていないが、町内会や会議等の使用に活用してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、R2年3月より文書による情報提供のみ行っている。 以前家族からの要望で家族参加型のイベントを希望され、実際に鍋パーティーを行った。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	社協との協力体制により、関係性が途切れていた家族と再び連絡をとることができた。 市町村担当者とも確認させてもらいながら制度利用者への対応をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束虐待防止委員会にて話し合う機会をつくり研修を適宜行っている。 定期的にセンサー使用についても話し、見直しを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修に参加し、苑内での研修に繋げている。 不適切なケアがあれば、会議等で話し合いケアに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑の利用しておられる方を照らし合わせて、施設内にて、制度についての研修を行い理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前から施設内を見学して頂いたり説明する機会を設けている。 解約・約定等にも随時、文書にて同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて意見交換をしてもらっていたがR2年3月よりコロナ禍の為中止し、情報提供のみ行っている。 家族来苑時やTELにて家族の意向を聴いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	敬愛苑会議・ユニット会議・定例会議・各委員会で話し合う場を作っている。 その他日々の要望に対応し、職員からの希望にて10:00~19:00勤務の変則勤務を新たに設けた。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	子育てや介護の為に夜勤や勤務形態について配慮している。 資格取得のについても金銭面での補助を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修についての年間計画を立て外部、内部研修を行っている。外部からの講師を招き研修を行った。面談を行い、日々の目標について一人一人話し合っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームや居宅等にパンフレットを配布したり日々の活動状況を報告している。 施設外の研修に参加することにより、業務にも活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前の面談において、生活歴、困っていること、大切にしていること、要望など利用者の言葉にしっかりと耳を傾け、信頼関係を築ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前の面談において、ご家族の思いを感じ取り、入居に向け少しでも安心して頂ける様、又、協力し合える関係を築ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の状況に応じたサービスを見極め、問題を把握し、施設として出来ること、出来ないことを伝え、場合によっては他事業所への提案をさせて頂くこともある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は一方的に支える立場ではなく、利用者から教わることもあれば、利用者の笑顔に元気をもらうこともあり、「お互いさま」で支え合い暮らしていける場となるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍にあり、面会、外出が制限されているが、お便り、ライン等で苑での様子を家族に伝え、関係が途切れないようにしている。また、必要時は病院受診をお願いすることもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ外出を計画するときは、利用者のゆかりのある場所をドライブコースに入れるようにしている。またコロナ禍で会うことができない家族とライン電話で交流を持って頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新しい方が入居された際、孤立しないよう、お話が合う方を見極めるため、席替えを試みることがある。また、利用者同士の会話を取り持ち、交流が持てるよう支援している。利用者同志で助け合いながらお手伝いをして下さっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後にも写真付きのお便りやTELをし、家族との友好的関係作りに努めている。 必要に応じて相談を行う体制はある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者全員へ食べたい食事や希望することなどのアンケートをとり、出来る範囲であるが、実際に計画し実行している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に面接をした段階で以前しておられたこと、興味のあることなど家族や本人、ケアマネ等に聞き取りをして、ケアプランに反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の情報や状態の変化を観察し、記録に残し、毎日ミニミーティングを行い、職員間で話し合いをし、情報共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職や看護師等の他職種で意見を出し合い、本人や家族の意向や要望を取り入れ、ケアプラン作成をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いつもと違う様子があれば特記事項に記入し、すぐに確認できるようにしている。 ミーティングで話し合った内容については連絡ノートに記入し、情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の付き添い時は、ご家族様に看護師より連絡し、付き添いできない場合には職員が病院へ同行し付き添うようにしている。コロナ禍のため、制限された生活ではあるが、家族との交流の場として新しくTV電話を取り入れた。定期的に苑での行事を写真や動画で送り様子を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの神社へ参拝したり宍道湖が見えるところまで散歩をしたりしている。テイクアウトの食事をご本人の希望のメニューをお聞きし、召し上がってもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人はもちろん家族の希望をお聞きし、家族に往診の協力をいただき、受診できている。受診されることで安心感を得られている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になることがあれば、看護師に報告している。看護師の指示を受け、状態を観察し、職員同士で連絡を取り、情報を共有している。看護師によるリハビリ体操も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態を知るために、病院へ出向き看護師からのアドバイスをいただき、情報共有をしている。退院後の苑での生活をより良くするため努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の希望が一番大事なので、看護師、医師と相談し、終末期に向けた話し合いをしている。職員同士でも情報交換をし、納得して頂くような支援をしている。事前に家族の要望を聞き苑にて1泊されるケースもあった。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを現場に用意し、適切に行動ができるよう意識している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災会議を行い、備品の見直し管理をしている。朝礼時、緊急時の各人の役割を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	普段より丁寧な言葉かけを心がけ、対応している。また、目線の位置や、対話時は笑顔で行うよう努めている。介助の際、男性職員に対して拒否がある利用者には同性介助ができるよう配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者様と対話しレク等を選んでもらったり、本人のやりたいことを聞いている。意思決定支援の研修を行い、職員のアンケートを用いた、ケアに対する意識改革を行った。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	苑での基本的な生活時間はあるが、利用者の状況に応じて、臥床される時間を調整したり、食事を遅らせたりと、本人のペースに合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとに衣替えをし、季節に合ったものを着用してもらえよう声掛けをしている。日々のケアとして、化粧水をつけ肌を整えたりパックをしてもらったりできる声をかけている。又、行事にあわせて服を選び、化粧をしたりとおしゃれを楽しんで頂ける様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍で外食は出来ないが本人の好きな弁当をえらび、雰囲気を変えラウンジや苑で食べて頂いたりしている。食事量の少ない方には家族からの協力を得て本人の好きなものを持ってきていただいたりしている。行事等で利用者に参加してもらい調理をする機会がある。又利用者に手消毒と台拭きは行ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分が足りない方には好みの物を提供し、食事量の少ない方には細かく切る等食べやすくしたり、ご飯にはふりかけ等をかける等している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で行えない方は、介助にて口腔ケアを行い、自力で行われる方でも、仕上げとして一部介助を行っている。 又、利用者の状況を見て病院受診を勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の様子を観察し、排泄表のチェックを行い、お一人お一人の排泄時やパターンを把握する。利用者に合わせた排泄時間に声掛けにてトイレ誘導をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便表にて各利用者様の排便状況を把握し牛乳、ウォーターメイト等水分補給してもらったり、体操、散歩等身体を動かしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お一人お一人の調子に合わせて入浴を楽しめるように、入浴剤を入れたり、ゆず湯にしたりしている。浴室での会話等している。身体、皮膚の観察も行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の体調にあわせ、午睡したり、身体を動かしたりして、リズムを作る。夜間時のパッドの改善により、安眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を作成している。誤薬を防ぐため、職員間で確認をしあう。服薬している薬についても看護師より学び、状態変化時には看護師や主治医と連絡を取り指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや、畳み、新聞畳み等、利用者に適したお手伝いをさせていただいており、季節ごとのお菓子作りや食事作りも計画し、個々に役割を持ち取り組んで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスにより、外出はほとんどできない状態だが、天候、気温、感染対策に注意し、職員間で連携し、少人数で近隣の神社や花壇へ水やりを兼ねて散歩に行き、季節感を感じて頂いたり、気分転換を図る。本年度は野菜を植え収穫し、食べることもできた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ前には、自分で食べたい物や欲しい物をコンビニへ買いに出かけたりしていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を所持しておられる方がおられ、充電をしたり、家族からの取次ぎの手伝いをしている。操作が分からなくなった場合にもお手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った作品や個人の作品を展示している。又、畳やソファが設置してあり自由に好きな場所で過ごされている。ラウンジや苑庭にて散歩や行事等で活用したりと自由に過ごされている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	使い慣れた椅子やソファを設置し、テレビやラジオを聞いたりとくつろげる空間づくりをしている。又、居室には自分の作品等を飾っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族様の写真や使い慣れた家具等置き、リビングには利用者様たちが作った作品を展示して居心地よく過ごせるようにしている。転倒の危険がある方には、マットを部屋中に敷き、安全に生活できるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯干し、畳み等、手伝って頂いたり、作品作り、ラジオ体操、口腔体操等して頂くことにより、脳と体のトレーニングをしている。メニュー表を書いたり、予定表を作成したり、日々楽しみを感じてもらいながら出来ることをして頂いている。		